

刊夕 日四十二月六



日刊俱日曜日... 日休一ヶ月廿五日... 廣告料一行四十... 場所指定 二十... 發行所 中谷政喜... 福島縣平本町三三... 新いわき新聞社

座講識常

ウルトラ・リンクンは... 極左翼、左翼共産主義... 左翼小児病を指す、ウ... ルトラは超えたは極端... の意でウルトラ。イズ... ムと云へば過激論或は... 急進論、ウルトラ。モ... ダンは超流行のことだ

石橋藏(佐藤興全、柏木哲)... (花澤久一) 郎星野七... (古川一三) 野崎隆義... 下真雄、花澤元九六、大... 河原金之助、(永山勇吉) 會... 川延太郎 (佐川久吉) 荒

川恒次郎 永山義太郎 青... 木榮吉) (金古正通) 市原... 三三男 上の括弧内は候補... 者中は事務長、下の括弧内... は委員

十七日平市第一小學校講堂に... 福島縣隊司令部主事の石城... 郡下青年學校振興座談會を... 御なし各種商業組合長を中... に郷軍分會、市議員、各學... 校長を會して商店側の勤勞時... 間に關するもの其他生徒の... 便宜を出來得るだけとされる... 様の打合せがある

土方の同僚殺し... 石城郡田入村の南大字坪内... 六七小松藤太郎方新水縣那須... 郡生れ土工古家小一(三)に... 係る田入村街の殺人及殺人... 未遂の同僚殺しは来る二十九... 日公判に附されると

出るく市議候補 今日迄に四十四名

五十名を豫想される賑々しさ 尙噂される者四、五名

平市誕生の市議員選挙は町憲から格の上つた市議と云ふ魅力に誘はれてか一般の出馬を唆るもの多く其のため三十名の定員に對して勢よく四十五名の立候補を豫想されてゐたが案の如く賑々しい出戦を以て昨二十三日日刊の正式届出に更に一名を加へて今二十四日は友引の名の通り次から次に出馬の友を誘つて正午までに十三名の立候補を見せ定員を超過すること十四名の合計四十四名に達し平窪側から四名の出馬を数えられるものに未だ二名に止まり舊平町側に於て植村喜一、芳賀沼源太郎氏等の新顔が打つて出でる噂を流してゐる現状より或は五十名に上るであらうと云はれるに至つた其後の立候補者は左記の如くである

▲三十一南町七一酒類商小松茂(四) 昨二十三日出出 ▲三十二田町三九旅館業酒井清(三) 第卅三番二丁目二一 一凍水販賣鈴木康左(四) 三番三丁目時計商大谷武雄(四) 卅五番地一の一の四 四無職新妻善吉(三) 三十六 紺屋町二九新聞記者馬目雅治(四) 卅七才地小路二四番 護士山野邊義政(四) 卅八平窪下平一四四服物商矢吹總作(四) 卅九平窪中村進

平市議候補の陣容 事務長と選挙委員

平市議の立候補は既報の如く昨二十三日で定員の届出に達したが全部の出揃へには豫想の通り四十五、六名に及ぶものと観測されてゐる各候補者の事務長並びに選挙委員は左記の如くである

▲(鈴木彌太郎) 同人(本間三郎) 菊地交見 佐々木鐵雄 山崎幸平 ▲(大井川幸隆) 同人(丸山春藏) ▲(高橋龜松) 安澤善太郎 ▲(大原虎二) ▲(大徳廣) 岡田健吉 ▲(渡邊謙) 安藤金治 市井茂 ▲(藤田榮助) 齋藤敏實 ▲(飯村菊雄) 中島孟 阿部包次 ▲(鈴木長三郎) 小野勇 ▲(眞根井久馬) ▲(鈴木光吉) 金成國雅(白土徳彌) 新井淺右工門 鈴木定一 伊藤治作 ▲(芦川淺次郎) 伊藤林之助(佐藤治郎) 谷川清助 鈴木泰毅 郡司吉男 ▲

(森原義雄) 梅津松吉(安田佐久馬 仲野林藏) ▲(吉田寅之輔) 小泉民三(緒形朝藏 佐藤仙松 松田榮橘 吉田茂一) ▲(丹野周一郎) 片寄好文(阿部正吉 石川榮山崎辰造) ▲(菅本庄治) 飯田近治(伊藤軍二 大金英太郎 渡邊一 高澤勝男

平窪に捕はれた老賊「信夫小僧」... 信夫小僧の所業と睨まれながら否認し... 昨午七月二十日石城郡好間村中村彌平方へ忍び出双鹿丁を盗み隣家の鈴木末次郎(伊藤儀七) 伊藤達雄(海老根正壽) ▲(佐々木龍若) 三本杉榮七 ▲(吉村安次郎) 宗像國松(吉村四郎) ▲(多田井笑次郎) 石井重太郎 ▲(川崎文治) 川角兼吉(山田榮松 今宮清吉 高木喬 内平小野里吉) ▲(阿部政右工門) 堀喜一(廣瀬三郎 今田義恵 高崎清明 門馬淺次郎) ▲(長瀬富彌) 島辰次郎(佐川茂 阿部太平 石川義助 根本幸次郎 鈴木要七) ▲(藤沼龍輔) 白

成績の悪い 都市青年校 来月振興座談會

仲の作の溺死体 は内郷村のもの

磐中對平商の 第二回戦

選挙違反二ヶ月

隨筆 目黒祐天寺より

(勿來文庫雜抄)

鮫川漁史

視、四倉村より小名迄御案内帳、大久村大兵衛(但し以上、原書二四行ニ書ク) (地理志料) 一

一長橋町 一曹洞宗松源寺 長橋長少百間 長橋村 一高二百三十三石 一家數、人數、馬數平町ニ入ル (延享三年寅八月私領御巡

ならず、只相馬岩城の惣名をいふのみ也、 平は安藤對馬守御領地(原注五萬石)、昔は岩城氏領地也、岩城と號する地凡三十餘萬石、岩城氏一圓に食地となし歴代の諸侯なりしが故有て僅二万石の所領を給わり、羽州龜田へ所管有し也(原注此時の領主岩城忠次郎貞隆と云)、其後此所領主度々變改あれ共、中々住き町也、飯野八幡社御巡見

母サダ儀本月廿二日八十一歳の高齡にて死去致候此段謹告候也 追て葬儀は廿五日午後二時自宅出棺通靈院にて執行可致候、尚ほ平市より御會葬の方は驛前野崎自動車部に於て御便宜御取計可申候 昭和十二年六月二十四日 石城郡玉川村住吉 男 野崎喜代亮 野崎隆之 野崎山滿 野崎喜太 野崎喜一 野崎親一 外親 戚 一八 同郎

品質第一位 文德墨汁 罐入。瓶入 代理店 魁文堂 電話313番

今日は北の風、晴 明日は南東の風、晴 (小名濱漁所)

桃の栽培

縣農試石 齋藤技師 (四)
城分珍長

大井上氏によれば、養素、燐、加里の順序に施した場合が最もよいやうである、然して、養素、燐、加里、は養素の重要期に燐、加里が不用だと云ふのではなく、相對的過剰を意味するのである。一營養器官と生殖器官は後者の發生初期に於ては依存的で生長するに従つて拮抗的であるが故に同一肥料成分配合で何時でも有利な率と云ふものは存在し得ない、ある時期は有利な率は又別の時期に有害であつたり又その逆もある」と云ふ見方が正しいとすれば理論的には基肥だけでよいといふことは決してないわけである、合理的に分施されなければならぬ。

(四)施肥の方法、傾斜地を除いては全園肥料によるべきである、傾斜地でも全園肥料に近く溝を廣くするか又は放射狀に外方に深く多くの溝を作り先づ堆肥を入れ次に全肥を掘り上げた土及び堆肥と混和して施用するのがよい、施肥の際には細根を少々切ることは支障はないが大きな根はなるべく切らないやうに注意せねばならぬ、大きな根を切るとは樹勢を損する虞れがある。

(五)中耕、除草、基肥の施用の際に四、五寸の深さに中耕を兼ねて行ふのが普通である、その後六月中下旬頃までは除草を兼ねて浅く中耕することは土中の肥料成分を分解して根からの吸収を盛んな

らしめるものである、開花期間約二週間は中耕は控へなければならぬ、それは中耕は一時的には根を切斷して吸収作用を減ずるからである、七月以後は草に除草に止めるがよい。

正確な体温計
なる寒暖計 (額各)
計量器指定販賣
平市五丁目角
山野邊藥局

牛も豚も優良品の自慢
肉の御 三三三屋 平市 田町
用命は

品名	目録	目録	目録
月カツレツ	チキン	カツ	カツ
火ホック	親千井	カツ	カツ
水エビ	ハヤシ	カツ	カツ
木メンチ	オム	カツ	カツ
金コロツケ	ハム	カツ	カツ
土フライ	ライス	カツ	カツ
日ランチ	ライス	カツ	カツ

特にマルトモの
ランチは...
材料のおまかせを願つて居る為め其の節々のおいしい新鮮な物を御進め出来たので御華客様からいつも御好評を戴いて居ります。

RESTAURANT MARUTOMO
堂食モトルマ
電話 二二三

内科、小兒科
大森醫院
醫學士 大森 勇
平市南町 電話 二五八番

専門 皮膚科 泌尿器科 性病科
診療時間 午前八時より 午後九時まで
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話 六九一

目科療診
一、齒科 一般
一、保存科 補綴科 鑲齒工料
一、齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿腫科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科 醫學士 中野 憲次
日本齒科 醫學士 西川 誠
平市田町(松月堂向ひ) 電話 五〇九番

新時代の要求
平市南町 電話 三〇七
平看護婦會
會長 清野 千代
御手不足の御家庭 輕い御病人の付添 妊婦産婦の御家庭
經濟的を御使 宜御用命をお 願ひ致します

平市紺屋町
藤沼醫院
電話 五〇七番
ス・エイ・ン G・H・N 元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒 1・10
御婦人の方には少し水を加へて 召し上ると風味一そう佳良です
(平2) 西村屋藥舖 (電3)

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
平市新川町「電話三六九番」

喫茶 茶。 喫。 酒場を兼ねた。
レストラン
サロ
町田平 二五三番

債券 公債 兩替 金融
多田井質店
平市大工町 電話 五九一

便利で 經濟な
日下家政婦會の
派出婦を御利用下さいませ
身元確かて品行方正ですから 何をお任せしてもご安心です
會員(同志)の 御加入を御誘 ひ致します 派出なき間 総務に裁縫や 授服物を御教 授致します
◎ 日下家政婦會
會長 日下すい子
電話 七二三番

良品 衛生 食品
衛生食品 衛生食品
衛生食品 衛生食品

外科一般 内臓外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
平市新川町二七(電話四六四)
醫學博士 北川 芳夫
技師 小林 良次